

2021年（令和3年）8月11日

防衛大臣 岸 信夫様

矢臼別平和委員会 会長 上出雅彦

第6師団、第5旅団による実動対抗演習の中止を求めます

陸上自衛隊幕僚監部ニュースリリースならびに別海町通知により「令和3年度北海道訓練センター第3回実動対抗演習等の概要」が公表されました。

それによると、本年8月20日から同25日までを期間として、第6師団約1000名と第5旅団約500名並びに訓練評価支援隊約250名による実動対抗演習が矢臼別演習場で実施されるということです。

矢臼別演習場では、6月28日から7月1日にかけて、日米共同訓練（オリエント・シールド21）が行われ、耳をつんざくような大音響のロケット砲射撃で町民の生活が脅かされました。大音響で町民生活に影響を与えただけでなく、オリエント・シールド21で、自衛隊と米国本土・ワシントン州陸軍による共同射撃訓練が国内で初めて行われたことも重大な問題でした。

実動対抗演習は、「陸自の新たな戦い方を確立し、真に戦える陸上自衛隊の創造」（「教育訓練研究本部新編の趣旨」より）のためのもので、極めて実戦的・即応的な演習だということが明確になっています。

5年前に「安保法制＝戦争法」が強行採決され、日本国憲法の枠を大きく超える集団的自衛権の発動、つまり、自衛隊がアメリカのための戦争に巻き込まれ、米軍の一部として使われてしまう危険性が一挙に高まりました。その準備のため、近年、一連の訓練・演習が続けられています。そのようなことは、憲法上絶対許されることではありません。

そもそも、新型コロナの新たな感染拡大が深刻さを増している中、国民には「自粛」を求めながら、多数の隊員と物資・装備品を、県をまたいで大移動させるなどということは、決してやってはなりません。

また、感染拡大を抑えるため、ワクチンの安定供給、PCR検査の抜本的拡充や医療体制の整備、生業を維持するための補償等は喫緊の課題であり、国の財政はそこに集中しなければならない時でもあります。大規模な兵員、物資・装備品の輸送に莫大な血税を使うわけにはいかないのです。

実戦的な大規模演習を実施することで北東アジアに無用な軍事的緊張をつくるばかりでなく、全国・全国民が必死になってとりくんでいる新型コロナ対策を妨害する今回の実動対抗演習は中止するよう強く求めるものです。

「実動対抗演習中止を」の抗議文送りました

岸信夫防衛大臣、吉田圭秀陸上幕僚長、田中重伸陸自教育訓練研究本部長の3名に宛て、8月11日、抗議文（左）を送りました。

来月、戦車公道走行

陸自 室蘭港から初陸揚げ

道新 8.7

陸上自衛隊北部方面総監部（札幌）は6日、陸自第7師団（千歳）が戦車を含む戦闘車両11両を公道走行させる長距離機動訓練を9月上旬に行うと発表した。釧路市街地周辺と、苫小牧から千歳まで、総延長約47キロを走行するほか、室蘭港でフェリーから車両を降ろす訓練を初めて行う。

総監部によると訓練は2011年から始まり、今年で7回目になる。公道を走行するのは、重量約50トンの90式戦車3両や89式装甲戦闘車2両などで、いずれも無限軌道の車両。昨年と同じ台数で、騒音対策などのため、無限軌道にはゴムパッドを装着する。

車両は9月6日夜に釧路駐屯地（釧路管内釧路町）から国道と道道を通り、釧路港まで約17キロを走行してフェリーに積み込む。苫小牧に海上輸送し、7日夜に戦車など9両が苫小牧西港から東千歳駐屯地（千歳）まで約30キロを走行する。

室蘭港へのフェリー到着は7日夜を予定。装甲戦闘車と99式155ミリ自走り榴弾砲の各1両を降ろすが、公道走行は行わない。室蘭港で訓練を行う理由について、総監部は「海上での機動能力の向上を図るため、苫小牧港と接続する場所として室蘭港を使うことにした」と話している。